

# われもこつ 第5号

1999年8月1日発行

## 夏、原っぱは

## 花ざかり。

ヤナギラン、オオバギボウシ、オミナエシ、シロバナモウズイカ、ワレモコウ・・・

前沢の原っぱは、2年目の夏をにぎやかに

むかえました。

昨春、みんなで

植えたニッコウ

キスゲ（の、つもり）

は、実は、

アサマキスゲ

でありました。

マツムシソウも

しっかり根付き、

元気に花を咲かせています。



七月十一日、中央公民館にて軽井沢町植物園の新井先生を講師にお迎えし、オーブンセミナー（こもれびの街講座）を開催しました。

\* \* \*

### 軽井沢って

### どんなトコ？

日本有数のリゾート地っていうだけじゃないんです。植生の豊かさでも日本有数の貴重な地域なのです。浅間山の火山活動によって泥流におおわれた地帯では高山植物が生えています（軽井沢程度の標高で！）。急速に減ってしまった草原や湿原は花々が大量落をつくっていました。また、大陸要素と呼ばれる氷河期の生き残り植物は日本列島の歴史を物語ってくれます。このように軽井沢は植物の宝庫です。そして今、それを失いつつあるのです。

●二十数年來軽井沢の野草の原生地風景を撮り続けてこられた方にそのスライドを見せて頂き、私達が子供の頃はどこにでも見られた花や草原が随分無くなっている事を改めて痛感しました。軽井沢の場合はゴルフ場になったり、別荘の分譲地になったり、樹木の成長により野草が減っているものと思われまます。

先日、NHKの「高山植物が消える？」を観て、高山植物の盗掘が全国的に行われているとの事、特に北海道では絶滅寸前の植物が結構あるようです。

「種の保存法」が七年前にできたのですが、指定の植物はたったの五種（キタダケソウ、ハナシノブ、アツモリソウ、レブンアツモリ、ホテイアツモリ）だそうです。番組でももっと多くの植物を指定する必要があるのではと言っておりました。山梨県では「高山植物保護条

令」を設け厳しい監視を続けているとの事、その効果も出ているようです。全国的に行われると良いと思います。

私達も野草の咲き乱れる高原を取り戻せたらと野草の種をまき苗を植えて二年目になりましたが、失われた自然を取り戻す事はやさしくありません。

この輪が広がりが軽井沢のあちこちで野草の咲く場所が増え、軽井沢に昔から咲いていた花を子供達に知ってもらって、そのやさしさを心に刻み、次の世代に残していってもらえたらというのが私達の願いでもあるのです。

私達が育てた花達もだんだんに自分の居場所を見つけ調和をとってくれてしょう。その時が自然に戻ったことになるのでしょうか。私達にはそのお手伝いをする事しかできません。あせらず無理をせず行きましようか、ねえ皆さん。(会員T・M)

この本がすすぬ!

『サクラソウの目』

—保全生態学とは何か—

地人書館 鷲谷いづみ 著

サクラソウ、誰でも知っている町の花です。でも、知ってますか？ 野生のサクラソウが日本中で絶滅しかけている事を！

軽井沢町の最後の大規模な自生地も今危篤状態です。「えっ！そんな馬鹿な！」と思った人は、この本をお読み下さい。サクラソウは、どうやって種をつけるか？どんな昆虫のおかげか？



(会員H・I)

特別寄稿

姉妹都市ウイスラーに学ぶ

藤巻進

軽井沢とウイスラー（カナダ）との姉妹都市提携を機に、町民有志十四人の中の一人として、この六月にウイスラーを訪問した。

ウイスラーはスキーリゾートとして北米一を誇るといわれているが、開発の歴史は二十五年と浅い。しかしリゾートとしての景観づくりや徹底した環境への配慮、人的なサービス対応には目を見張るものがある。其中で特筆すべきは自然動物への接し方である。

街の背景にはスキーゲレンデである2つの山が広がっており、ここには十二頭の熊が生息している。時々市街などへ出没する

熊に餌を与える事にならないようにゴミ箱は鉄と木で作っている。デザインも良く頑丈で見るからにお金がかかっている。



日本では熊が里に出れば大騒ぎになるが、ここウイスラーの市民はいたずらに熊を恐がる事が無いという。事実、我々を乗せたリフトの足下数メートルには熊がいたし、その近くでは人が作業をしていた。なんと不思議な光景が日常となっている。

こんな姿を目にするとカナダでは動物愛護精神が徹底しているが、そうではなさそうだ。人

間と熊にはルールがあり、前記のように餌を絶対に与えないため自分のコスト負担をする、動物への必要以上の干渉をしないようにパンフレット等で市民に啓蒙するなどして自然の法を守っている。しかし、熊がルールを犯して人家に入ろうとすれば、連絡を受けたハンターが撃ち殺す。今までに十数頭を撃ち殺したという。

ウイスラーの人々は人間による自然動物への影響をできるだけ少なくして、必要以上に動物を恐れたり、また愛玩の対象にすることなく自然に付き合う術を身につけている。

「自然」を売りにしたキャッチフレーズに留まらない自然との共生哲学を、軽井沢も身につけなければいけない頃である。

## —— 日曜日の午後は 前沢の原っぱで会いましょう ——

野の花に囲まれて ティータイムならぬ  
草むしりのひととき…♡ 帽子、軍手、  
ゴム長靴で ファッションはばっちりきめて。  
(ネクタイの代わりに手ぬぐいを首に巻くと  
良いでしょう。) スコップや草とり鎌も  
もって来て下さいネ。

今後の作業の予定日……

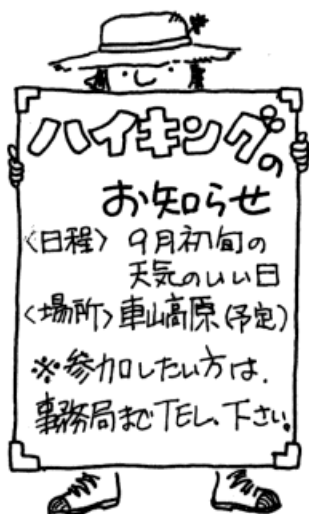
8月	8日と22日
9月	5日と19日
10月	3日と17日

時間は 1:30 ~ 3:30  
P.M. P.M.

多くの方の参加を  
お願ひします。

## —— ご協力ありがとうございました ——

- 植物園のみなさん — カリガネソウなど 種 たくさん
- 小諸の尾沼さん — チゴユリなど ● 行田さん — ハクサンイチゲ
- 丸山さん — ヤナギラン ● 金井さん — カワラナデシコなど
- 美清津さん — ムラサキリョクサ ● 磯部さん — 黄色の花
- 軽井沢ライオンズクラブ様 — 寄付金 3万円



※皆さんの会費アラス寄付金で来年のためのクワッカス  
球根1000球などを購入する予定です。その他、  
よい使い方があったら アイデアをお寄せ下さい※

## —— われもこうの会では 会員を募集しています ——

会費 2,000円 (65才以上の方、18才未満の方は500円)  
だけ参加して下さい方、労働力だけ参加して  
下さる方、両方参加して下さい方、あなたの  
気持ちで 会員になって下さい!!